

Ⅲ. 調査結果の要約

1 区の施策および評価について

(1) 住みごち

(本文 67ページ)

練馬区の住みごちを聞いたところ、「住みよい」(40.9%)が約4割、「まあ住みよい」(54.0%)が5割半ばとなっており、この2つを合わせた『肯定的評価』(95.0%)が9割半ばとなっている。一方、「あまり住みよくない」(2.8%)、「住みにくい」(0.3%)を合わせた『否定的評価』(3.1%)はわずかとなっている。

(2) 練馬区が住みよいと感じるところ

(本文 72ページ)

練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(49.6%)が5割と最も多く、次いで「治安が比較的よい」(47.0%)、「買い物がしやすい」(43.7%)、「交通の便がよい」(42.6%)、「防災の面で比較的安心である」(15.8%)などの順となっている。

(3) 練馬区が住みにくいと感じるところ

(本文 76ページ)

練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」(19.3%)が約2割と最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(15.9%)、「買い物が不便である」(12.6%)、「働く場所があまりない」(11.1%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(11.0%)などの順となっている。

(4) 定住意向

(本文 80ページ)

これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(37.1%)と「当分は住み続けたい」(43.5%)を合わせた『定住意向』(80.6%)が約8割となっている。一方、「できれば区外へ移りたい」(3.1%)と「区外へ移りたい」(0.9%)を合わせた『転出意向』(4.0%)はわずかとなっている。

(5) 練馬区への愛着

(本文 84ページ)

練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(31.1%)と「どちらかという愛着を感じる」(47.5%)を合わせた、愛着を『感じる』(78.5%)が8割近くとなっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」(5.0%)と「愛着を感じない」(2.3%)を合わせた、愛着を『感じない』(7.4%)は1割近くとなっている。

(6) 練馬区に対する誇り

(本文 88ページ)

練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(11.7%)と「どちらかという誇りを感じる」(36.7%)を合わせた、誇りを『感じる』(48.4%)が5割近くとなっている。一方、「どちらかという誇りを感じない」(9.5%)と「誇りを感じない」(7.2%)を合わせた、誇りを『感じない』(16.7%)は2割近くとなっている。

(7) 施策の満足度と必要性

(本文 93・95ページ)

満足度について『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①健康づくりの推進	(78.4%)	①交通安全対策	(51.9%)
②みどりの保全と創出	(76.8%)	②駅周辺のまちづくり	(42.2%)
③循環型社会づくり	(71.0%)	③区内企業の活性化・魅力ある 商店街づくり	(42.0%)
④都市農業の振興と都市農地の 保全	(69.8%)	④エネルギー政策の展開	(41.2%)
⑤子育て支援	(68.5%)	⑤観光の推進	(38.6%)

必要性について『必要性が高い評価』と『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『必要性が高い評価』上位5項目		『必要性が低い評価』上位5項目	
①医療環境の充実	(84.7%)	①観光の推進	(42.3%)
②災害に強い安全なまちづくり	(83.1%)	②地域活動の活性化と多文化共生 社会の実現	(40.0%)
③交通安全対策	(83.0%)	③文化・生涯学習・スポーツの振興	(34.4%)
④健康づくりの推進	(80.4%)	④平和と人権の尊重、男女共同参画 の推進	(34.1%)
⑤高齢者福祉	(79.8%)	⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(29.0%)

(8) 施策への要望

(本文 110ページ)

特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(24.1%)が2割半ばと最も多く、次いで「医療環境の充実」(19.5%)、「高齢者福祉」(19.4%)、「子育て支援」(18.3%)、「交通安全対策」(17.7%)などの順となっている。

(9) 区政情報の入手先

(本文 114ページ)

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(64.7%)が6割半ばと最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(42.9%)、「掲示板」(18.2%)、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」(14.9%)などの順となっている。

(10) 『ねりま区報』の閲読度

(本文 116ページ)

『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(11.0%)と「必要な記事は読んでいる」(44.3%)を合わせた『読んでいる』(55.3%)が5割半ばとなっている。一方、「あまり読んでいない」(21.2%)と「まったく読んでいない」(22.2%)を合わせた『読んでいない』(43.4%)は4割を超えている。

(10-1) 『ねりま区報』の満足度

(本文 119ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(616人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(8.6%)と「満足している」(75.0%)を合わせた『満足評価』(83.6%)が8割を超えている。一方、「あまり満足していない」(12.3%)と「満足していない」(1.3%)を合わせた『不満評価』(13.6%)は1割を超えている。

(10-2) 『ねりま区報』の入手手段

(本文 122ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(616人)に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」(62.3%)が6割を超えて最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」(29.9%)、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」(9.3%)の順となっている。

(10-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

(本文 124ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(616人)に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「『お知らせ』『講座・催し』『高齢者』『健康・衛生』『子ども・教育』などのお知らせ」(73.4%)が7割を超えて最も多く、次いで「1面の記事」(44.0%)、「医療関係機関のお知らせ記事」(34.6%)、「2面や最終面などの特集面」(24.0%)などの順となっている。

(10-4) 『ねりま区報』を読んでいる理由

(本文 126ページ)

『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(483人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(43.7%)が4割を超えて最も多く、次いで「入手方法がわからない」(32.1%)、「必要な記事がない」(22.4%)などの順となっている。

(11) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容(企画)

(本文 128ページ)

『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容(企画)を聞いたところ、「区立施設の紹介」(41.8%)が4割を超えて最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」(33.0%)、「区内の名所・公園の紹介」(27.7%)、「区民や地域で活動する団体の紹介」(19.3%)などの順となっている。

(12) 『ねりま区報』の配布方法の意向

(本文 131ページ)

『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」(73.9%)が7割を超えて最も多く、次いで「全世帯に配布すべき」(12.0%)、「送付サービスをもっと拡大すべき」(6.7%)、「配布施設をもっと増やすべき」(4.2%)の順となっている。

(13) 『ねりま区報』の発行回数の意向

(本文 134ページ)

『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい(月3回)」(50.3%)が5割と最も多く、次いで「月1回にすべき」(24.1%)、「月2回にすべき」(21.7%)、「毎週発行など回数を増やすべき」(0.4%)の順となっている。

(14) 『ねりま区報』の情報量の意向

(本文 137ページ)

『ねりま区報』の情報量の意向を聞いたところ、「今のままでよい」(83.2%)が8割を超えて最も多く、次いで「もっと減らすべき」(7.6%)、「もっと増やすべき」(4.8%)の順となっている。

(15) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度

(本文 139ページ)

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(25.5%)が2割半ばとなっている。一方、「知らない」(72.4%)は7割を超えている。

(15-1) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度

(本文 141ページ)

『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(284人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(3.2%)と「興味のある内容のときだけ見ている」(41.5%)を合わせた『見ている』(44.7%)が4割半ばとなっている。

(16) 『区ホームページ』の閲覧状況

(本文 143ページ)

『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」(1.7%)と「必要に応じて見ている」(46.1%)を合わせた、『見ている』(47.8%)が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ていない」(38.7%)は4割近くとなっている。また、「見られる環境がない」(4.4%)はわずかとなっている。

(16-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度

(本文 145ページ)

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(533人)に閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(2.3%)と「満足している」(59.5%)を合わせた『満足評価』(61.7%)が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」(31.9%)と「満足していない」(3.6%)を合わせた『不満評価』(35.5%)は3割半ばとなっている。

(16-2) 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器

(本文 147ページ)

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(533人)に閲覧時に主に利用している機器を聞いたところ、「スマートフォン(高機能携帯電話)」(58.7%)が6割近くと最も多く、次いで「パソコン」(29.1%)、「携帯電話」(4.7%)、「タブレット」(4.3%)の順となっている。

(17) 知っている練馬区公式SNSアカウント

(本文 149ページ)

知っている練馬区公式SNSアカウントを聞いたところ、「LINE」(16.8%)が2割近くと最も多く、次いで「X(旧Twitter)」(15.8%)、「YouTube」(7.2%)、「Facebook」(5.9%)などの順となっている。一方、「知っているものはない」(59.1%)は約6割となっている。

(18) 区がSNSを活用して情報発信を行うこと

(本文 151ページ)

区がSNSを活用して情報発信を行うことについて聞いたところ、「積極的に活用すべき」(33.1%)と「どちらかという活用すべき」(31.8%)を合わせた『活用すべき』(64.9%)が6割半ばとなっている。一方、「どちらかという活用すべきではない」(1.7%)と「活用すべきではない」(1.3%)を合わせた『活用すべきではない』(3.0%)はわずかとなっている。

(19) 『わたしの便利帳』の所有状況

(本文 153ページ)

『わたしの便利帳』の所有状況を聞いたところ、「ある」(61.9%)が6割を超え最も多く、次いで「わからない」(23.8%)、「ない」(12.0%)の順となっている。

(19-1) 『わたしの便利帳』の利用頻度

(本文 155ページ)

自宅に『わたしの便利帳』が「ある」と答えた方(690人)に、便利帳の利用頻度を聞いたところ、「頻繁に利用する」(0.9%)、「月に数回程度は利用する」(3.2%)、「年に数回程度は利用する」(29.6%)の3つを合わせた『利用する』(33.6%)が3割を超えている。一方、「以前は利用したが、最近では利用していない」(29.7%)が3割、「利用していない」(34.1%)は3割半ばとなっている。

(20) 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと

(本文 157ページ)

今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「検索しやすいホームページの構築」(53.6%)が5割を超えて最も多く、次いで「ねりま区報による情報発信の充実」(37.9%)、「SNSを活用した即時性のある情報発信」(32.7%)、「アプリを活用した分野ごとの情報発信」(14.7%)などの順となっている。

(21) 区政情報を入手する際に利用したいSNS等のサービス

(本文 159ページ)

区政情報を入手する際に利用したいSNS等について聞いたところ、「LINE」(43.9%)が4割を超えて最も多く、次いで「X(旧Twitter)」(26.1%)、「YouTube」(21.3%)、「Instagram」(19.9%)などの順となっている。

(22) SNS等で区から受け取りたい情報

(本文 161ページ)

SNS等で区から受け取りたい情報について聞いたところ、「健康・医療」(52.0%)が5割を超えて最も多く、次いで「防災・防犯」(34.3%)、「イベント・講座」(33.9%)、「ごみ、リサイクル・環境」(27.8%)などの順となっている。

(23) 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか

(本文 163ページ)

知りたい区政情報がどの程度伝わっているか聞いたところ、「十分伝わっている」(2.3%)と「ある程度伝わっている」(52.5%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっている』(54.8%)が5割半ばとなっている。一方、「あまり伝わっていない」(33.4%)と「まったく伝わっていない」(6.1%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっていない』(39.5%)は4割となっている。(図1-23-1)

(24) 区政情報が伝わっていないと思う主な理由

(本文 165ページ)

知りたい区政情報が「あまり伝わっていない」または「まったく伝わっていない」と答えた方(440人)に、伝わっていないと思う主な理由について聞いたところ、「情報の入手方法がよく分からない」(43.9%)が4割を超えて最も多く、次いで「調べても知りたい情報にたどり着かない」(29.3%)、「知りたい情報があるが確認する時間がない」(28.4%)、「情報が多く、他の情報に埋もれて見逃してしまう」(17.3%)などの順となっている。

2 防災について

(1) 大きな地震発生時の心配ごと

(本文 167ページ)

大きな地震発生時の心配ごとについて聞いたところ、「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」（85.7%）が8割半ばと最も多く、次いで「家族の安否」（80.0%）、「食料の確保」（67.2%）、「火災」（57.5%）、「通信手段の確保」（53.9%）などの順となっている。

(2) 災害時の家族との連絡方法の決めごと

(本文 170ページ)

災害時の家族との連絡方法の決めごとについて聞いたところ、「SNS（LINE、X（旧Twitter）など）を利用する」（36.4%）が3割半ばと最も多く、次いで「決めた場所で待ち合わせをすることになっている」（24.4%）、「災害用伝言ダイヤル（171）または災害用伝言版（web171）を利用する」（18.8%）などの順となっている。一方、「連絡方法を決めていない」（34.2%）は3割半ばとなっている。

(3) 知っている区の防災情報

(本文 172ページ)

知っている区の防災情報について聞いたところ、「水害ハザードマップ」（49.0%）が約5割と最も多く、次いで「練馬区公式ホームページ（災害情報ポータル、防災・安全安心情報）」（42.5%）、「防災の手引」（39.3%）、「防災マップガイド（地域別防災マップ）」（19.1%）などの順となっている。

(4) 『東京被害想定デジタルマップ』で自宅周辺の災害リスクの確認

(本文 175ページ)

『東京被害想定デジタルマップ』で自宅周辺の災害リスクを確認したことがあるか聞いたところ、「見たことがある」（20.8%）が約2割、「知っているが、見たことはない」（21.4%）が2割を超えており、この2つを合わせた『知っている』（42.2%）が4割を超えている。一方、「知らなかった」（54.1%）が5割半ばとなっている。

(5) 家庭で備蓄しているもの

(本文 177ページ)

家庭で備蓄しているものについて聞いたところ、(1) 家庭内備蓄は、「飲料水」（78.3%）が8割近くと最も多く、次いで「懐中電灯などの光源」（66.3%）、「食料」（65.6%）、「ラジオ」（42.9%）、「現金」（42.6%）、「常備薬」（39.9%）などの順となっている。一方、「特にしていない」（10.2%）は1割となっている。

(2) 非常持ち出し袋は、「懐中電灯などの光源」（32.1%）が3割を超えて最も多く、次いで「飲料水」（26.2%）、「食料」（25.0%）、「携帯トイレ」（21.3%）、「ラジオ」（20.6%）、「現金」（15.0%）などの順となっている。一方、「特にしていない」（35.2%）は3割半ばとなっている。

(5-1) 家庭での備蓄量

(本文 182ページ)

家庭での備蓄量を聞いたところ、(1) 飲料水・食料は「3～6日分」（34.4%）が3割半ば、「1週間分以上」（8.4%）が1割近くとなっており、この2つを合わせた『3日以上』（42.8%）が4割を超えている。一方、「特にしていない」（14.6%）は1割半ばとなっている。

(2) 携帯トイレは「1～2日分」（22.7%）が2割を超え、「3～6日分」（15.0%）が1割半ばとなっている。一方、「特にしていない」（53.1%）が5割を超えている。

(5-2) 災害時にペットと一緒に生活するために必要な物品の備蓄状況 (本文 185ページ)

ペットを飼っている方(264人)に、災害時にペットと一緒に生活するために必要な物品の備蓄状況を聞いたところ、「備蓄していない」(51.5%)が5割を超えている。

(5-3) アレルギー対応食品の備蓄状況 (本文 186ページ)

アレルギー疾患のある家族がいる方(ご自身を含む)(250人)に、アレルギー対応食品の備蓄状況を聞いたところ、「備蓄していない」(84.4%)が8割半ばとなっている。

(6) 日頃から行っている安全対策 (本文 187ページ)

日頃から行っている安全対策について聞いたところ、「家具類が転倒しないように固定している」(40.8%)が約4割と最も多く、次いで「暗い中で避難できるように、非常灯を設置している」(25.7%)、「自宅を耐震化している」(17.8%)、「電化製品を固定している」(14.2%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(32.0%)は3割を超えている。

(6-1) 安全対策をしない理由 (本文 189ページ)

日頃から行っている安全対策について「特にしていない」と答えた方(356人)に、安全対策をしない理由について聞いたところ、「面倒だから」(35.1%)が3割半ばと最も多く、次いで「お金がかかるから」(25.0%)、「方法が分からない(自分ではできない)から」(24.2%)などの順となっている。

(7) 在宅避難の選択 (本文 191ページ)

自宅が安全であれば在宅避難を選択するかを聞いたところ、「在宅避難を選ぶ」(85.0%)が8割半ばとなっている。

(8) 在宅避難をする場合に協力しあえる人 (本文 193ページ)

在宅避難をする場合に協力しあえる人がいるか聞いたところ、「家族、親戚等」(70.6%)が約7割と最も多く、次いで「近所や近隣の人」(22.4%)、「友人」(12.5%)などの順となっている。一方、「いない」(15.5%)は1割半ばとなっている。

(9) 在宅避難に不安を感じていること (本文 195ページ)

在宅避難に不安を感じていることについて聞いたところ、「自宅の水道やトイレを使用することができるか」(80.7%)が約8割と最も多く、次いで「飲料水、食料、生活必需品を受け取ることができるか」(75.0%)、「飲料水、食料、生活必需品など自宅の備蓄物資が不足しないか」(63.3%)、「自宅でも正しい情報が入ってくるか」(46.8%)などの順となっている。

(10) 中高層住宅特有の被害で知っていること (本文 197ページ)

中高層住宅(3階建て以上のマンション・共同住宅)にお住まいの方(452人)に、中高層住宅特有の被害で知っていることについて聞いたところ、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」(77.0%)が8割近くと最も多く、次いで「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」(75.0%)、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」(70.1%)などの順となっている。

(11) 住まいの中高層住宅で行っている対策

(本文 199ページ)

中高層住宅（3階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（452人）に、住まいの中高層住宅で行っている対策について聞いたところ、「定期的に訓練を行っている」（19.2%）が約2割、「管理組合などで、共同で飲料水、食料、生活必需品を備蓄している」（16.6%）が2割近くとなっている。一方、「特にしていない（知らない）」（67.9%）は7割近くとなっている。

(12) 災害発生時の自力での避難の可否

(本文 201ページ)

災害発生時に自力で避難ができるかを聞いたところ、「自力で避難できる」（76.4%）が7割半ばと最も多くなっている。

(12-1) 自力で避難するときの行動

(本文 203ページ)

災害発生時に「自力で避難ができる」と答えた人（851人）に、避難するときどのような行動をするかを聞いたところ、「家族の無事を確認する」（90.5%）が約9割と最も多く、次いで「近所で火災が起きているときは、初期消火を行う」（44.3%）、「近所に自力で避難することが難しい人がいるときは、一緒に避難する」（42.1%）、「近所にけが人がいたときは、応急処置を行う」（39.7%）などの順となっている。

(12-2) もしもの時に避難できるようにするために備えていること

(本文 205ページ)

災害発生時に「自力で避難ができない」と答えた人（53人）に、もしもの時に避難できるようにするために備えていることを聞いたところ、「家族に安否確認や避難の支援を頼んでいる」（41.5%）が4割を超えて最も多く、次いで「『避難行動要支援者名簿』に登録している」（9.4%）となっている。一方、「何もしていない」（37.7%）は4割近くとなっている。

(13) 自分のまちを守るためにできること

(本文 206ページ)

自分のまちを守るためにできることについて聞いたところ、「室内の安全対策や備蓄を進めて、在宅避難すること」（78.9%）が8割近くと最も多く、次いで「自宅の出火を防ぐなど、地域の住民として火災対策をすること」（62.2%）、「自分や家族が地域の防災訓練に参加すること」（26.8%）などの順となっている。

(14) 自宅で行っている火災対策

(本文 208ページ)

自宅で行っている火災対策について聞いたところ、「火災警報器の設置・更新」（54.0%）が5割半ばと最も多く、次いで「消火器の設置」（39.3%）、「古い配線の見直し、コンセントのホコリの清掃」（32.5%）、「感震ブレーカーの設置」（12.4%）などの順となっている。

(14-1) 感震ブレーカーの設置タイプ

(本文 210ページ)

自宅で行っている火災対策について「感震ブレーカー」と答えた人（138人）に、感震ブレーカーの設置タイプを聞いたところ、「分電盤に内蔵されているタイプ」（74.6%）が7割半ばと最も多く、次いで「ばね・おもりをブレーカーに引っ掛ける簡易タイプ」（8.0%）、「部屋のコンセントに差し込むタイプ」（5.1%）などの順となっている。

(14-2) 感震ブレーカー作動時や復旧時の注意点の認知と対策

(本文 211ページ)

自宅で行っている火災対策について「感震ブレーカー」と答えた方(138人)に、感震ブレーカー作動時や復旧時の注意点の認知と対策を聞いたところ、「知っているし、対策もしている」(34.1%)が3割半ば、「知っているが、対策はしていない(不要である)」(39.9%)が4割となっており、この2つを合わせた『知っている』(73.9%)が7割を超えている。一方、「知らない(初めて知った)」(21.0%)は2割を超えている。

(14-3) 感震ブレーカーを設置していない理由

(本文 212ページ)

自宅で行っている火災対策について「感震ブレーカー」と答えなかった人(938人)に、感震ブレーカーを設置していない理由を聞いたところ、「知らなかった」(74.7%)が7割半ばと最も多く、次いで「お金がかかる」(6.5%)、「知っているが使い方がよくわからない」(4.1%)などの順となっている。

(15) 消火器具の操作訓練の体験

(本文 214ページ)

消火器具の操作訓練を体験したことがあるかを聞いたところ、(1)消火器は「体験したことがある」(60.1%)が6割、「体験したことはないが、体験してみたい」(27.4%)が3割近くとなっている。

(2)スタンドパイプは「体験したことがある」(3.2%)はわずかとなっている。一方、「知らない」(65.9%)が6割半ばとなっている。

(3)軽可搬ポンプは「体験したことがある」(3.1%)はわずかとなっている。一方、「知らない」(67.9%)が7割近くとなっている。

(16) 地域の防災活動の参加経験

(本文 218ページ)

地域の防災活動の参加経験を聞いたところ、「日頃から参加している」(9.2%)が約1割、「参加してみたい」(50.2%)が5割となっている。一方、「参加するつもりはない」(36.3%)は3割半ばとなっている。

(16-1) 地域の防災活動に参加したきっかけ

(本文 220ページ)

地域の防災活動に「日頃から参加している」と答えた人(102人)に参加したきっかけを聞いたところ、「自分たちのまちを守りたいと考えた」(40.2%)が4割と最も多く、次いで「地域の防災会などのメンバーである」(29.4%)、「近所の人から誘われた」(18.6%)、「防災用品、炊き出し等がもらえる」(11.8%)などの順となっている。

(16-2) 地域の防災活動に今まで参加していない・参加するつもりがない理由

(本文 221ページ)

地域の防災活動に「参加してみたい」、「参加するつもりはない」と答えた人(963人)に今まで参加していない理由、参加するつもりがない理由を聞いたところ、「日時、場所、申し込み方法がわからないから」(48.0%)が5割近くと最も多く、次いで「日時の予定が合わないから」(43.2%)、「健康に不安があるから」(11.6%)などの順となっている。

(17) 体験したい防災訓練

(本文 223ページ)

体験したい防災訓練について聞いたところ、「AEDの操作訓練」(48.0%)が5割近くと最も多く、次いで「消火器の操作訓練」(47.3%)、「火災の消火訓練」(39.8%)、「負傷者等の救出救護訓練」(25.1%)などの順となっている。一方、「特にない」(14.8%)は1割半ばとなっている。

(18) 「水害ハザードマップ」の認知と自宅周辺の災害リスクの確認経験 (本文 225ページ)

「水害ハザードマップ」で自宅周辺の災害リスクの確認経験を聞いたところ、「見たことがある」(59.7%)が6割、「知っているが、見たことはない」(23.2%)が2割を超え、この2つを合わせた『知っている』(82.9%)が8割を超えている。一方、「知らなかった」(13.6%)は1割を超えている。

(19) 水害に備えて自らの行動計画の作成状況 (本文 227ページ)

水害に備えて自らの行動計画の作成状況を聞いたところ、「作成している」(3.2%)はわずかとなり、「作成しようとしたが、作成方法がわからなかった」(10.2%)が1割となっている。一方、「作成していない(作成しようと思わなかった)」(82.0%)が8割を超えている。

(20) 区に取り組んでほしい防災対策 (本文 229ページ)

区に取り組んでほしい防災対策について聞いたところ、「木造密集地域や狭い道路の解消などのまちづくり」(47.8%)が5割近くと最も多く、次いで「河川や下水道の整備(水害対策)」(46.9%)、「飲料水、食料、携帯トイレなど、備蓄の重要性の周知」(45.7%)、「自力で避難することが難しい方への支援」(42.5%)などの順となっている。